

# バンク・ネガラ・インドネシア (BBNI)

## E-バンキングの取引金額拡大のほか、純金利マージン改善、および首都移転プロジェクト関連の貸出増を期待 インドネシア | 銀行 | 業績フォロー

**フィリップ証券株式会社**

BLOOMBERG BBNI:IJ | REUTERS BBNI:JK

- 2021/12通期は、総収益が前期比13.7%増、純利益が同3.3倍。純金利収益と非金利収益が増加。経費率低下に加え、不良債権費用が減少。
- 2021/12通期のE-バンキング取引金額は、モバイル・バンキングが前期比31.9%増、銀行口座を持たない人のAgen46が同11.8%増と拡大。
- 中央銀行の銀行預金準備率引上げ見通しによる純金利マージン改善に加え、首都移転プロジェクト関連インフラ向け貸出増が期待される。

### What is the news?

1/26発表の2021/12通期は、総収益が前期比13.7%増の55.86兆IDR、営業費用が同12.3%増の24.80兆IDR、貸倒引当金繰入額が同17.0%減の18.29兆IDR、純利益が同3.3倍の10.89兆IDR。純金利収益、非金利収益ともに堅調に推移。利益面では経費率が同0.8ポイント低下改善の43.3%となったほか、不良債権処理費用の減少も増益に寄与した。4Q（10-12月）の前四半期比でも、総収益が4.8%増、純利益が15.9%増。また、貸出債権の質についても、4Qの不良債権比率（グロス）が前四半期末比0.1ポイント低下改善の3.7%となった。

通期の総収益の内訳は以下の通り。①純金利収益が前期比12.4%増の34.04兆IDR。期末貸出残高が同5.3%増と伸びたほか、純金利マージン（NIM）も0.2ポイント上昇の4.7%と改善した。②純保険料収入が同4.9%減の1.39兆IDR。③非金利収益が同12.8%増の13.63兆IDR。消費者向けフィーが同6.0%増、企業向けのビジネスバンキングに係るフィーは同10.7%増だった。④貸倒債権回収額は同66.7%増の2.58兆IDRだった。

### How do we view this?

2022/12通期の会社計画は、貸出残高が前期比7.0-10.0%増と前期から伸びが加速、純金利マージンが同4.6-4.8%と前期並みの見通し。デジタル・チャンネル（E-バンキング）の2021/12期の取引金額は、モバイル・バンキングが同31.9%増、銀行口座を持たない人への銀行サービスである「Agen46」も同11.8%増と拡大。更なる成長が見込まれる。

インドネシア中央銀行は1/20、政策金利（7日物リバースレポ金利）を過去最低の3.50%に据え置いたものの、銀行預金準備率を向こう8ヵ月で3.0%ポイント引き上げると発表。バック・ネガラ・インドネシアの純金利マージンは年後半に向けて改善が期待される。

また、インドネシア国会は1/18、首都を現在のジャカルタから北に約1,200キロ離れたカリマンタン島の森林地帯に移す「首都移転プロジェクト」を承認する法案を可決、成立。移転着手は2024年の予定で、インドネシア独立100周年となる2045年に移転完了の方針。インフラ投資向けの中長期的な貸出増加へ追い風となろう。

### 業績推移

※参考レート 1IDR=0.008円

事業年度	2019/12	2020/12	2021/12	2022/12F	2023/12F
当期利益(十億IDR)	15,384	3,280	10,898	15,258	18,846
EPS(IDR)	825.00	176.09	585.96	816.22	1,007.75
PER(倍)	8.88	41.60	12.50	8.97	7.27
BPS(IDR)	6,569.67	5,915.08	6,644.04	7,246.93	8,067.33
PBR(倍)	1.11	1.24	1.10	1.01	0.91
配当(IDR)	206.24	44.02	(発表前)	197.98	275.44
配当利回り(%)	2.82	0.60	-	2.70	3.76

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

配当予想(IDR)	<b>197.98</b>	(予想はBloomberg)
終値(IDR)	<b>7,325</b>	2022/1/31

### 会社概要

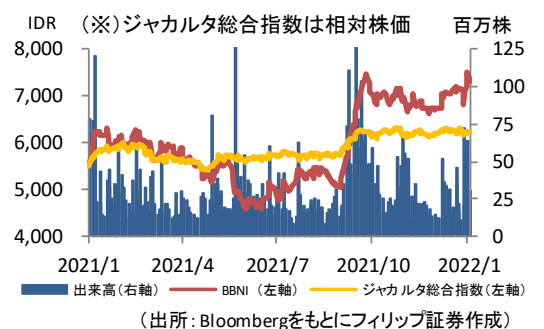
1946年に設立した国有商業銀行。インドネシア政府によってインドネシア最初の銀行として設立され、当初は中央銀行と商業銀行の両方の機能を持ち、インドネシア初の紙幣の発行に携わった。1949年に蘭系ジャワ銀行に中央銀行業務を引き継いだ後、開発銀行および外国為替銀行の役割を担った。1955年の資本増強に伴い、国有商業銀行となった。設立年の1946年にちなんで、46をロゴマークとしている。

個人・法人向け商業銀行、国際金融、ウェルス・マネジメント、インターネットバンキング、テレフォンバンキング、モバイルバンキング等を提供している。特に、石油・ガス・鉱業、エンジニアリング、建設、通信、電力、化学、小売り・卸売、農業・食品の成長ポテンシャルの高いインドネシアの主要8産業にフォーカスし、成長のサポートを行っている。

また、インドネシア経済の牽引役でもある中小企業への支援も行い、貸出を増やしている。また、個人顧客向けにはニーズに合わせ、ローン、デビットカード、クレジットカード、退職年金、バンカシュアランスなどサービス提供を行う。現在約1,000以上の国内支店と5つの海外支店を有する。

### 企業データ (2022/1/31)

ベータ値	1.53
時価総額(十億IDR)	136,601
企業価値=EV(十億IDR)	-
3ヵ月平均売買代金(十億IDR)	192.4



### 主要株主 (2022/1)

	(%)
1.インドネシア共和国	60.00
2.VANGUARD GROUP	1.47
3.ルウエー銀行	1.38

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

### リサーチ部

笹木 和弘

kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp

+81 3 3666 6980

**【レポートにおける免責・注意事項】**

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者:

公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

＜日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項＞

・本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。